

## 平成25年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	白石町立有明南小学校		
2 所在地	佐賀県杵島郡白石町大字深浦5581番地1		
3 校長名	大川内 加代子		
4 学級数 児童生徒数	7学級 127人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 127人

### 6 取組のねらい

人間は一人一人違いがある。身体的特徴や能力、年齢、性別、国籍など、他にも様々な違いがある。この多様な個性や違いを理解し、相手を尊重する意識や思いやりの心を育み共に生きることの素晴らしさに気づかせる。

### 7 取組の実際

	6月	8月	9月	10月	11月	12月	
1年	「さっちゃんのまほうのて」(道徳)	平和集会					福祉体験活動 人権集会
2年						「友だちと仲良く」(学活)	
3年						「リフレイク」100回 (道徳)	
4年			「UDさがし」 (学活)				
5年						「UD」(道徳)	
6年						「言葉の贈り物」 (道徳)	

- UDの視点に立った授業実践（道徳・学活・総合的な学習など）  
 学年の発達段階に応じて、一人一人の違いを認め合い、人の痛みを感じ取ることの大切さに気づかせ、自分と同じように他人も大切にできるような感性を育てるための授業実践を行った。
- 平和学習  
 多くの「いのち」を奪った「戦争」という事実を知ること、尊い「いのち」を守るために、自分たちに今できることはどんなことかを考えさせた。  
 各学年、事前学習として、戦争に関する絵本の読み聞かせなどを行い、平和に関する授業を行った。

6年生は、調べ学習に取り組み、そこで学んだことを集会で発表した。

平和集会では、実際に戦争を体験された方の話を聞かせていただき、大切なことについて学んだ。

集会の後、平和への願いをこめて鶴を折った。縦割り班で上級生が下級生に教えながら一つ一つ丁寧に折っていった。その鶴は千羽鶴にして6年生が修学旅行で平和公園に供えた。

<6年生の発表会>



<戦争を体験された方の話>



<鶴を折る児童>



○ 福祉体験活動

全校でふたつに分かれ、アイマスク体験と車いす体験を行った。社会福祉協議会から4名の方が指導に来て下さって、児童にわかりやすく説明をして下さった。そのため、障がいがある方の気持ちを考えながら支えたり支えられたりしながら体験活動をする事ができた。



<車いすで段差を上る児童>

福祉体験学習の感想  
名前：く

私は、今まで目が見えない人の気持ち  
がよく分からなかった。経験できていな  
いから。でも今日経験できた。第一歩  
歩けたのは、杖を持っている人がい  
るにあって、なにがないのか、目的地ま  
であとどれくらいなのか、今までわから  
なかったのが、杖に気がつくまで。目  
が見えない人は、こんなにも大変だとわか  
れた。ときどき、昨日免強した森に、障  
がいがあっても華やかに暮らしている。他に  
も、障がいの人はたくさんいる。関係ない  
障がいがあっても、目が見えない人は、怖  
くなくて、支えてくれる人がいる。私も今日、友  
達が、案内してくれて、とても行けた。か  
た人は、やはり支え合ふことが、  
大切だと感じた。時間目だった。

<児童の感想>



<3人1組でアイマスク体験>

## ○ 人権集会

絵本「どんなかんじかなあ」の読み聞かせをし、障がいがある方の思いに寄り添うことについて感じ取らせた。

また、アイマスク体験と車いす体験を通して学んだことを、それぞれに各学年から一人ずつ代表で発表した。支援学校で学ぶ同級生と毎年交流している3年生は、車いすの大変さを実感し、こらからはもっと力になりたいという感想を持っていた。

## 8 取組の成果と課題

各学年の実態に応じて、UDの視点に立った授業実践を行った。1時間の授業だけでなく他の教科や活動と関連させながら、年間を通して児童の人権意識を高める学習を積み重ねることができた。

平和集会では、実際に戦争を体験された町内の方に話をしていただいた。身近な人が、身近な場所で体験したことは、児童の心に強く訴えかけるものがあった。体験者のお話と6年生の学習発表を全校で聞くことで平和の大切さを感じることができた。さらに、集会の最後に縦割りグループに分かれて平和への願いを込めて鶴を折ることでさらにその思いを深めることができた。

福祉体験学習については、社会福祉協議会の方が、福祉学習支援ということで道具の貸し出しだけでなく実際に児童の指導に関わって下さったので、教師だけでは伝えることができなかつたことを児童にわかりやすく指導して下さった。専門の方に指導していただくことで教師も児童とともに大切なことを学ぶことができた。読み物資料や映像だけでなく、実際に体験することでしかわからない多くの気づきが、今後の児童の生活に生かされると考えられる。校内だけでなく、地域、専門機関の方々と連携して学習を進めていくことは児童のUD教育を進める上で、とても有意義なことであることを実感することができた。

今後も地域、専門機関との連携を大切にしながら、児童一人一人がお互いを理解し尊重し合えるような心を育んでいきたい。